Dr. 板東のメディカルリサーチ No. 139

〈プライマリ・ケアで 日本を健やかに〉

◆プライマリ・ケア医学の全国大会

1ヶ月前、本稿No. 138で、プライマリ・ケア医学（総合診療、総合医関連）の全国大会について、触れさせていただいた。今回のニュースは、2017年5月12-14日に、ＪＲ高松駅直結の国際会議場において開催された「日本プライマリ・ケア連合学会の第８回学術集会」である。全国からの参加者は4700名に至り、今までで一般演題の発表数も最も多くなった。

私は大会長講演を担当し、今回のテーマである「総合診療が拓く未来～地域に新たな架け橋を～」に加え、長年私の恩師である日野原重明先生からご指導いただいている「サイエンスやアート、音楽療法」などについて解説した。その際、ピアノ演奏をしながら、音楽療法における重要な原則である「同質の原理」に触れ、ビートルズの「ヘイ・ジュード」の歌詞を説明した上で一緒に歌い会場は歌声で包まれた。

◆四県のキャラクターが勢ぞろい

いろいろな企画の中から２つを紹介したい。まず、特別講演として、徳島にゆかりがあり、世界に情報発信をしている方をお招きした。徳島県の南部に上板町がある。ここに全国または世界から見学者がやってくるといえば、かの有名な「葉っぱビジネス」を思い出すだろう。歴史を変えたのが、株式会社いろどりの横石知二社長であり、以前には「News Week（日本版）」世界を変える社会起業家100人にも選出されることに。また、2014年には、徳島新聞賞　第50回記念賞および徳島県表彰を受賞されたのである。氏のご講演は感銘を受けるもので、最後のスライドで示されたのは、次の言葉である。「自分が働くことによって周りを幸せにすることができれば、最高の人生である」と。

他方の話題は、大会長講演の直後に行われた「Invited Lecture（招待講演）」である。オーストラリアから医学教育の専門家お二人をお招きさせていただいた。Paul Worley教授は「General Practice - a primary role in undergraduate medical education in Japan」を、Lucie Walters教授は「Creating a postgraduate path to rural generalist practice」についてお話された。

その後、座長として、伴信太郎国際関係委員会委員長と私とを含め、４人で議論を行った。なお、写真は懇親会の場でお二人の教授と四国四県のキャラクターを撮影したもので、最も価値が高くお金では買えないpriceless presentとなったかもしれない。

◆四国四県ではいろいろな医療が実践

日本にプライマリ・ケア医学の概念を導入したのは、私が尊敬する日野原重明先生である。そのプライマリ・ケア医学が大きく発展してきており、全国各地で、地域や施設、患者や家族に対応した医療が拡がってきている。

私は大会長講演の中で、四国四県における素晴らしい医療の実践を広くお伝えし、発信させていただいた。その中でも感銘を受けたのが「高知県におけるへき地医療ネットワークである。右図に示したのでご覧いただきたい。

私は大会長講演の中で、３年前に私が大会長を拝命し、その後、四国支部をあげて仲間と一緒に協力していろいろな準備を進めてきた。お陰さまで無事に終了し、すべての関係者に感謝申し上げるとともに、ほっと胸をなでおろしている。

（板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト）